

～骨粗鬆症～

骨粗鬆症とは？

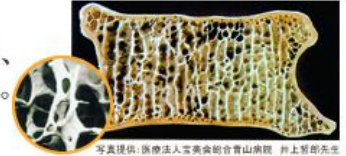


骨粗鬆症とは、骨強度が低下し、骨折しやすくなる骨の病気です。骨の中がスカスカの状態になり、骨がもろくなってしまいます。そうなることにより、わずかな衝撃でも骨折しやすくなります。また、癌や脳卒中、心筋梗塞のようにそれ自体が命を脅かす病気ではありませんが、骨折によって要介護状態になることもあります。この状態になると、QOL(生活の質)は著しく低下してしまいます。生涯、健康ですごす為には骨強度も気にかけて、定期健診を受けましょう！

健康な人の骨は、密度が高くて丈夫。



骨粗鬆症の人の骨は、スカスカしてもろい。



写真提供：医療法人実業総合青山病院 村上智郎先生

骨粗鬆症薬と歯科治療



骨粗鬆症の薬として使用頻度が高いのがビスフォスフォネート剤です。ビスフォスフォネート剤を使用している患者様が、抜歯等の歯科治療を行うと抜歯部が治らず骨がむき出しになり、骨の壊死が起こることが報告されています。

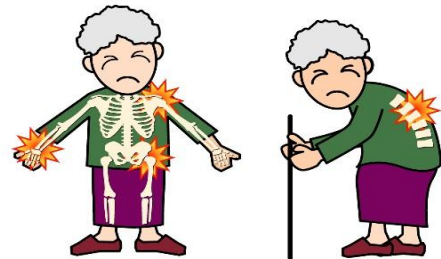
その発生を防ぐ最善の方法は、口腔衛生状態を保つために適切な歯みがきを行い定期的な歯科検診を受けること、歯科受診時はBP剤を投与されていることを伝えることです。

また、骨粗鬆症や関節リウマチなどでこれからBP剤の内服や注射が予定されている場合は、抜歯などの外科的な歯科処置は可能な限りBP剤による治療開始前に完了しておくことが大切です。すでにBP剤の内服や注射を受けている方は、その治療期間によっては**抜歯前に3～6ヶ月BP剤を休薬する**必要があります

ただし、顎骨壊死(がっこつえし)は、ビスフォスフォネート剤を使用している全ての人に起こるわけではありません。

使用方法 や 使用期間...等さまざまな条件によって違ってくることが少しずつ分かってきています。

ビスフォスフォネート剤は関節リウマチ、パジェット病、乳ガンや肺ガン等の腫瘍性疾患の治療でも用いられる場合があります。BP剤を使用している方の歯科治療に際しては、歯科医師と内科や整形外科などBP剤を処方している医師との間で打ち合わせが必要ですので、患者さんご自身での判断せず、必ず担当の歯科医師にBP剤を内服(あるいは注射)している旨お申し出ください。



骨粗鬆症予防にみかんを食べるといいらしい!!

みかんなどの柑橘類に多く含まれ、動脈硬化や肝機能障害などの予防に役立つことが知られている「β(ベータ)-クリプトキサンチン」が閉経後の女性に多くみられる骨粗しょう症の原因となる骨密度の低下を予防する効果のあることがわかりました。**ミカンを毎日4個食べる**ことに相当する血中濃度の人では、**ミカンを食べない日がある人よりも、骨粗鬆症にかかるリスクが92%も低い**ことがわかりました

